

子どもに不可欠な「あそび」が促す成長 コミュニケーション力を育むあそび場づくり ～ ボーネルンドの小学校における取り組み ～

■ 「あそび」と「コミュニケーション力」の深い関係

2012年卒の現大学3年生の就職活動が、まもなく本格化を迎えるこの時期。街ではリクルートスーツを身に纏った学生の姿を目にするようになりました。就職活動といえば、企業が学生に求める資質のひとつとして「コミュニケーション能力」が挙げられる機会が増えていきます。また、年長世代から若い世代に対して「コミュニケーション能力」の低下を嘆く声もよく耳にします。実際に若者の「コミュニケーション能力」が「低下」しているかはともかく、現在の若い世代が幼い頃の「あそび環境」の変化～少子化による一人あそびや習い事の増加～が、コミュニケーション能力の変化を生んだことは間違いないといえるでしょう。

子どものあそびは、最初は一人あそびから始まりますが、そもそも「人とつながりたい」という欲求から生じています。あそぶ感情を共有し、人とつながることで喜びを感じるのです。そして、子どもたちは子どもたち同士で遊ぶことで「他者と接すること」＝コミュニケーションを学んでいきます。

たとえば「ごっこあそび」は、子どもたちがある役割のもと、コミュニケーションを取ることを通じて、想像力や社会性、協調性、役割意識、対話する力、道具の使い方、日常に潜む危険を回避する力など、これから社会の中で生きていくために必要な力を身につけていく大切な「学びの場」となります。外あそびの場合、身体を存分に動かすことによって、楽しみながら



自然に身体機能を発達させていきますが、それだけでなく、集団であそぶことで子どもたち自身が話し合ってルールを作ったり、その場で工夫して面白く遊ぼうと考えたりと、子どもなりに知恵を働かせて遊ぶことで、仲間と協力すること、ルールを守ること、相手への思いやり、けんかしたり仲直りしたりすることなど、たくさんを学んでいきます。

子どもたちにとって、あそびを通して学ぶ他者とのコミュニケーションは、社会人の基盤となる絶好の機会であり、人間的成熟に不可欠な経験なのです。

■ ボーネルンドの幼稚園・小学校に向けたあそび環境づくり

「コミュニケーション能力」を育てるために、必要な子ども時代の「あそび」。しかし、子どもたちだけで安全に遊べる環境は、残念ながら減少しているのが現状です。このような状況の中、重要度が増しているのが、幼稚園や小学校の園庭・校庭です。

ボーネルンドは30年に渡り、子どもの健全な成長に必要な体験が安全にできる豊かなあそび環境を創造しています。こうしたノウハウを活かし、ボーネルンドでは幼稚園・保育園や小学校において、子どもたちにとって理想的な園庭・校庭環境のプロデュースもおこなっています。次ページでは、ボーネルンドの校庭環境作りの事例をご紹介します。

～全国初、子どもたちが主役の新しい「あそび環境」を～
立教女学院小学校（東京都杉並区）



『立教女学院小学校 Joy Platz』

竣工：2008年9月 場所：東京都杉並区



東京都杉並区にある立教女学院小学校は、2008年9月、グラウンドの一部（プレイコート）をリニューアルし、安全面に配慮した、創造性にあふれる新しいあそび環境を生み出しました。児童の発案で「Joy Platz（ジョイプラッツ）」と名づけられたこのあそび場。新校舎建築のため、遊具やグラウンドのスペースが減少する一方、あそびをリードするために教師が子どものあそびに関与しすぎたことで、子どもたち自身があそびの世界を創り上げ、問題解決能力やコミュニケーション能力を育てていくという、あそびが持つ大きな意義が失われているのではないかと…。体力の低下だけではない、こうした教職員の危機感が、単なる運動遊具の設置計画から、まったく新しい「子どもたちのあそび環境の整備」という大きな教育プロジェクトへと発展し、ポーネルンドとともに、創造性ある「あそび環境」を作っていくことになりました。「校庭＝運動場」という考えが根強い日本では、小学校の校庭での本格的な「あそび場」の導入は、全国でも初の取り組みとなりました。

一人ひとりの身体能力に合ったあそびを選択でき、あそびを通してからだを動かすことの楽しさを感じられる環境づくりを目指して導入された「Joy Platz」。導入から2年たち、体力面の効果以外にも、子どもたちに変化が現れています。あそび場では、子どもが主役となるべく、教師はあそび場内に介入せず、子どもの自治に任せるようにしています。このことが、自分たちであそび方を考え、ルールを自己責任で守るようになるなど、子どもたちの自立に大きく役立っています。以前は教師を介してあそぶことが多く、子どもたち同士のコミュニケーションが希薄になり、何か揉め事が起きたときにも、すぐに教師を呼んでしまう、といったことが起きていましたが、今では教師が間に入らなくても、子どもたち同士で揉め事を解決できるようになりました。また、同学年だけではなく、異年齢の子どもと一緒に遊ぶ機会が増え、異年齢の子ども同士のコミュニケーションが増加したことで、学校生活全般で上級生が下級生の面倒をよくみるようになったという効果も出ています。休み時間に思い切り体を動かして遊ぶことで、授業中の集中力や学習意欲も高まっています。

今では子どもたちの学校生活に欠かせない場所となった「Joy Platz」。小学校にできた「あそび場」が、子どもの体力はもちろん、コミュニケーション力や自分で考える力といった、大人になったときに必要となる能力を育む場所として機能しています。

ポーネルンドとは

ポーネルンドは、“あそびの道具と環境”を提供することを通じて子どもの健全な成長に寄与するため、1981年に設立。一般家庭向け、子どもの成長に必要な生活道具としての“あそび道具”を提案、全国約80カ所で直営店舗を運営しています。また、同時に幼稚園や保育園、公園などに高品質な大型遊具や教育道具の提供を含めたあそび環境の開発を行っており、現在までに手掛けた実績は国内約3万カ所まで拡大しています。

【発行元・本件に関するお問合せ】

株式会社ポーネルンド 広報室 担当：村上

TEL：03-5785-0860 FAX：03-5785-0861

E-mail：y-murakami@bornelund.co.jp